

7 計画目標・K P I（重要成果指標）

○計画の基本理念及び基本方針の達成に向けて継続的にモニタリングする指標としては、下記のとおりとします。

基本方針1 鉄道軸及び主要駅を中心とした交通ネットワークの充実

鉄道は本市における基幹交通であることから、着実に利用者数の増加を図るものとし、以下の目標指標を設定し、コロナ禍で落ち込んだ鉄道需要の回復を目指します。

・目標指標 I Rいしかわ鉄道線の乗降人員（松任～小舞子駅間の乗降人員計）

（R5：10,468人/日→R11：13,000人/日）

I Rいしかわ鉄道線においては、西松任駅開業効果の継続及び沿線利用促進により、コロナ禍前の水準への回復を目指します。

（参考：コロナ禍前の最大乗降人員（H30年度）13,250人/日）

北陸鉄道石川線の乗降人員（陽羽里～鶴来駅間の乗降人員計）

（R5：1,738人/日→R11：2,000人/日）

北陸鉄道石川線においては、鉄道事業再構築事業（後述）の確実な実施及び利便性向上施策の実施により、コロナ禍前の水準への回復を目指します。

（参考：コロナ禍前の最大乗降人員（H30年度）1,998人/日）

基本方針2 生活に必要な公共交通の持続的な運行継続

・目標指標 一般路線バス（補助対象路線）の1日当りの利用者数

(R5：612人/日→R11：750人/日)

路線バスについては、鉄道とともに本市の幹線を担う公共交通であることから、現在、補助対象となっている路線においても利用者を確保し、持続的な路線維持を図るため、コロナ禍前の水準への回復を目指します。

コミュニティバスの1日当りの利用者数

(R5：579人/日→R11：650人/日)

コミュニティバスは主に高齢者にとっての買物や通院等の生活の足及び通学の足として重要であり、将来の高齢者増加や免許返納への対応、さらに土曜日運行の定着を勘案し、毎年2%ずつの増加（計画年次5年間で12%の増加）を目指します。

コミュニティバス・一般路線バスの行政負担額

(R5：199,453千円/年→R11：199,453千円/年)

コミュニティバス及び一般路線バスの運行維持については、県による支援等を受けながら市の予算を適宜確保し、人口減少社会にあっても施策目標の達成に向けて、将来にわたって公共交通サービスレベルの維持に努めます。そのため、計画年次において現状と同程度の行政負担を想定します。

基本方針3 公共交通のさらなる利用を通じた外出機会の増加と交流の促進

- ・ 目標指標 公共交通の利用頻度（計画終了年次のアンケートで検証）
電車・バスのいずれかを月1日以上利用している人の割合

（R6：17%→R11：20%）

公共交通を使った外出頻度の増加を図ります。目標指標として、コロナ禍で一旦落ち込んだ公共交通の利用頻度を現在よりも高めることとし、計画終了年次のアンケートにおいて検証するものとします。

公共交通利用促進の発信・活動回数

（R6：3回/年→R11：5回以上/年）

様々な機会を通じて公共交通の利用を促すための活動を継続することとし、毎年ダイヤ改正や広報紙における情報提供、様々なイベント等における公共交通利用周知の取組等の発信を増やします。